

多方向スラリー揺動攪拌工法「WILL-m 工法」

新たな噴射機構の搭載による施工効率 20% 向上

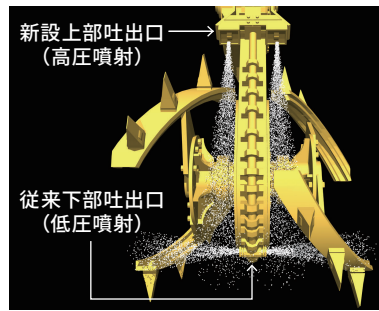
技術の概要



WILL-m工法施工機械全景

☑ 従来型WILL工法とWILL-m工法の比較

	吐出口	吐出圧	スラリー供給量 (L/min)
従来型 WILL工法	下部	1MPa	240
WILL-m 工法	上部	10MPa 以上	400 (約1.7倍)
	下部	1MPa	



WILL-m工法攪拌翼

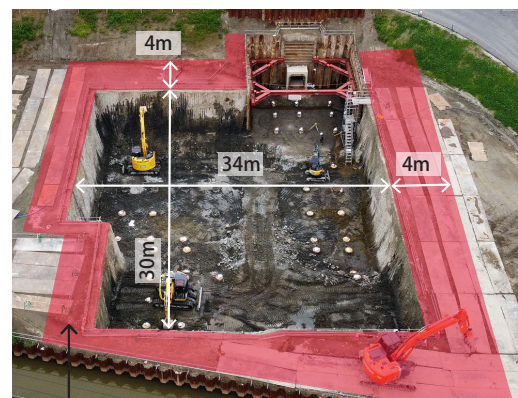
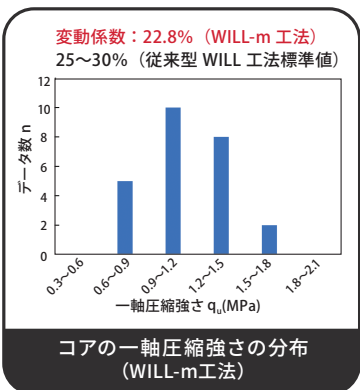
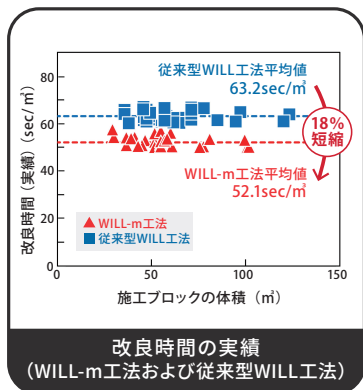
WILL工法は地盤改良工法のうち中層混合処理工法に分類され、セメントスラリーと原地盤を攪拌翼により攪拌・混合することで改良体を造成します。

従来型WILL工法に新たな噴射機構を搭載し、攪拌性能を向上させた「WILL-m工法」を開発しました。

新設の上部吐出口からセメントスラリーを高圧で噴射することにより、攪拌性能を大幅に向上させました。

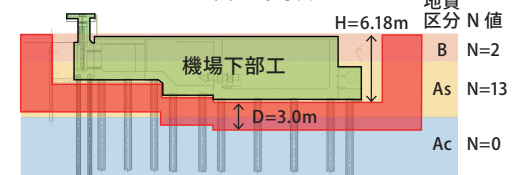
技術の効果

農業用ポンプ機場建設工事における地盤改良土留めの構築にWILL-m工法を適用しました。従来型WILL工法に対して改良時間を約18%短縮し、従来型と同等以上の品質を満足することを確認しました。



地盤改良土留め (目標強度: 0.28MPa)

(a) 全景写真



(b) 断面図

地盤改良土留め概要図

